

令和 8 年度

大学院教育学研究科 学校教育学専攻
(修士課程)

学 生 募 集 要 項

【現職教員特別選抜】

第 1 回

- 出願期間 令和 7 年 7 月 18 日 (金) ～ 7 月 23 日 (水)
- 試 験 日 令和 7 年 8 月 24 日 (日)
- 合格発表 令和 7 年 9 月 16 日 (火)

第 2 回

- 出願期間 令和 7 年 10 月 16 日 (木) ～ 10 月 21 日 (火)
- 試 験 日 令和 7 年 11 月 9 日 (日)
- 合格発表 令和 7 年 12 月 8 日 (月)

【一般選抜】

- 出願期間 令和 7 年 10 月 16 日 (木) ～ 10 月 21 日 (火)
- 試 験 日 令和 7 年 11 月 9 日 (日)
- 合格発表 令和 7 年 12 月 8 日 (月)

令和 7 年 5 月

千葉大学

目 次

1	専攻募集人員	1
2	選抜区分・出願資格	1
3	出願資格(9), (10), (11)の認定	3
4	出願手続等	4
5	選抜方法	8
6	障害等のある入学志願者の事前相談	11
7	合格者発表	12
8	入学手続について	12
9	入学手続時に要する経費	12
10	昼夜間開講について	13
11	長期履修学生制度について	13
12	大学院修学休業制度について	13
13	科目等履修生制度について	13
14	教育職員免許状の取得について	14
15	保育園について	14
16	通学について	14
17	注意事項	14
	千葉大学大学院教育学研究科・修士課程・学校教育学専攻の概要	15
1	学校教育学専攻の教育目的と特徴	15
2	教育課程編成の方針	15
3	各系の概要と教育プログラムの特徴	17
4	教育学研究科・修士課程・学校教育学専攻 教員一覧	19
	教育発達支援系	19
	横断型授業づくり系	20
	言語・社会系	21
	理数・技術系	22
	芸術・体育系	24
5	修学の形態	26
6	教員免許	27

1 専攻募集人員

専攻・系	入学定員	募 集 人 員		
		現職教員特別選抜		一般選抜
		第 1 回	第 2 回	
学校教育学専攻 教育発達支援系 横断型授業づくり系 言語・社会系 理数・技術系 芸術・体育系	59名	16名	若干名	43名

- ・現職教員特別選抜においては、第1回と第2回でそれぞれ学生募集を行います。
(第1回で受験して不合格となった場合でも第2回に出願することができます。)
- ・現職教員特別選抜による合格者が、募集人員に満たなかった場合は、一般選抜の合格者で補充します。

2 選抜区分・出願資格

教育に関する職歴の有無などにより、〈現職教員特別選抜〉及び〈一般選抜〉の2つの選抜区分があります。選抜区分ごとに内容が異なるので、どの選抜区分に出願できるか、以下の記載を十分に確認の上で出願してください。

〈現職教員特別選抜〉

次の①又は②のいずれかに該当し、かつ、下記の〔出願資格〕(1)～(11)のいずれかに該当する者

- ① 出願時において、学校教育法第1条に定める学校の専任教員^(注)(養護教諭を含む)であり、令和8年4月1日までに3年以上の専任教員(養護教諭を含む)としての経歴を有する者で、入学後も継続して教員を続ける者
- ② 出願時において、学校教育法第1条に定める学校の専任教員^(注)(養護教諭を含む)であり、過去に5年以上専任教員(養護教諭を含む)として勤務した者で、現在(入学時)は教員ではない者

(注) 学校教育法第1条に定める学校は幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学(短期大学及び大学院含む)及び高等専門学校が該当します。なお、出願時において認定こども園で保育教諭(原則として幼稚園教諭免許状を所持していること)として専任で勤務している場合には、「学校教育法第1条に定める学校の専任教員」と同等であるとみなします。

〈一般選抜〉

下記の〔出願資格〕(1)～(11)のいずれかに該当する者

〔出願資格〕

- (1) 大学(学校教育法第83条第1項に定める大学をいう。以下同じ。)を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和8年3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者

- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和8年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって上記(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和8年3月修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- * (9) 令和8年3月までに、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認めた者
- * (10) 令和8年3月までに外国において学校教育における15年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校における15年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- * (11) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者及び令和8年3月31日までに22歳に達する者
- * 出願資格(1)～(8)のいずれにも該当しないため、出願資格(9)・(10)・(11)のいずれかで出願を希望する場合には、3ページ「3 出願資格(9), (10), (11)の認定」を参照して、事前に教員養成系総務・学務課入試係に確認をした上で、出願前に個別の入学資格審査を申請して本研究科の出願資格認定を受けてください。

★ [出願資格] に関する説明等

- ・ 出願資格(2)は、主に「大学を卒業していないが、高等専門学校や短期大学の専攻科等を修了して所定の学習を修めたことにより、大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与されている者及び令和8年3月までに授与される見込みの者」が該当します。なお、この出願資格により出願し、入学者選抜に合格した者のうち、諸事情により学士の学位を得られなくなった者は、その旨を、速やかに文書で本研究科長宛に申し出てください。
- ・ 出願資格(6)は、主に「外国において学校教育を受けたため、大学までの学校教育の課程が16年に満たないが、修了した大学等が修業年限3年以上の課程であり、学士に相当する学位を授与されている者及び令和8年3月までに授与される見込みの者」が該当します。
- ・ 出願資格(8)の文部科学大臣の指定した者には、主に「教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校、高等学校若しくは幼稚園の教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は一種免許状を有する者で22歳に達した者及び令和8年3月31日までに22歳に達する者」や「旧国立養護教諭養成所設置法（昭和40年法律第16号）による国立養護教諭養成所を卒業した者で、教育職員免許状による中学校教諭の専修免許状又は一種免許状を有する者」が該当します。
- ・ 外国人の志願者は、合格しても昼夜間又は夜間のみの履修形態では留学の在留資格を取得することはできませんが、昼間のみの履修形態の場合は取得が可能です。（出入国管理及び難民認定法第7条第1項第2号の基準を定める省令）

3 出願資格(9), (10), (11)の認定

出願資格(9), (10), (11)のいずれかにより出願を希望する場合には, 所定の提出期間内に提出書類をそろえて個別の入学資格審査を申請してください。

(1) 提出期間

選 抜	提 出 期 間
現職教員特別選抜 (第1回)	令和7年6月26日 (木) から6月27日 (金) まで
現職教員特別選抜 (第2回)	令和7年9月16日 (火) から9月17日 (水) まで
一般選抜	

受付時間は9時～17時(12時～13時を除く)。郵送による場合は, 簡易書留郵便で「大学院出願資格認定申請書在中」と朱書きし, 提出期間最終日の17時までに届くように送付してください。

(2) 提出書類

① 出願資格(9)で出願する場合

	提 出 書 類	摘 要
1	入学試験出願資格認定申請書	本学所定の用紙に必要事項を記入して提出
2	成績証明書	出身大学長又は学部長等が作成した証明書を提出
3	推薦書	出身大学の学(部)長が作成したものを提出 (様式は任意とします)
4	出身大学(学部)履修規程	卒業に必要な授業科目・単位数を明記したもの

② 出願資格(10), (11)で出願する場合

	提 出 書 類	摘 要
1	入学試験出願資格認定申請書	本学所定の用紙に必要事項を記入して提出
2	最終学校の卒業・修了(見込)証明書	出身大学長又は学部長等が作成した証明書を提出
3	最終学校の成績証明書	出身大学長又は学部長等が作成した証明書を提出
4	学習歴及び実務経験等に関する調書	本学所定の用紙に必要事項を記入して, 実務経験歴を証明する在職証明書等を添付の上で提出
5	履歴書(外国人志願者のみ)	本学所定の用紙に必要事項を記入して提出

※出願資格(10)の「外国において学校教育における15年の課程を修了した者」は, 関係書類を提出する前に, 出願する分野の教員に申し出て, 出身大学の勉学の状況等を説明し, 入学試験出願資格認定申請書の右上端に確認印を受けてから提出してください。

(3) 提出先

千葉大学教員養成系総務・学務課入試係(教育学部1号館1階)
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

(4) 認定の結果

審査結果は願書受付開始に間に合うように本人あてに通知します。

4 出願手続等

(1) 出願受付期間

選 抜	受 付 期 間
現職教員特別選抜 (第1回)	令和7年7月18日(金) から7月23日(水) まで
現職教員特別選抜 (第2回)	令和7年10月16日(木) から10月21日(火) まで
一般選抜	

受付時間は、平日の9時～17時(12時～13時を除く)。

郵送による場合は、受付期間最終日の17時までに届くように送付してください。

(2) 出願方法

郵送の場合：必ず簡易書留郵便とし、封筒の表に「大学院願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合：上記受付時間中に教員養成系総務・学務課入試係に提出してください。

(3) 出願書類提出先

千葉大学教員養成系総務・学務課入試係(教育学部1号館1階)

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号

(4) 出願書類

志願者は、次の出願書類等を提出してください

	出 願 書 類 等	該 当 者	摘 要
1	入学願書及び受験票	全員	本学所定の用紙に必要事項を記入して、写真(大きさ縦4cm×横3cm, 上半身, 正面, 脱帽で最近3か月以内撮影のもの)を入学願書並びに受験票に1枚ずつ貼り付けてください。また、検定料をお支払いの際に印刷・受領した収納証明書を、願書裏面の「収納証明書」貼り付け欄に貼り付けて提出してください。 ※一般選抜で出願する方は、「5. 選抜方法」の試験科目を参照し、出願する系において選択科目を選択して出願する場合には、希望する問題群を記入してください。
2	検 定 料 30,000円	全員 (国費外国人留学生は不要です。願書裏面の該当箇所にチェックしてください。)	次の手順に従い、必ず出願前に検定料をお支払いください。 (1) 検定料払込期間： 現職教員特別選抜(第1回) 令和7年6月24日(火) から7月23日(水) まで 現職教員特別選抜(第2回)・一般選抜 令和7年9月20日(土) から10月21日(火) まで (2) 払込方法： 「E-支払いサービス」(https://e-shiharai.net/) を利用し、コンビニエンスストア決済、銀行ATM(ペイジー)、ネットバンキング、クレジットカードのいずれかによりお支払いください。

	出願書類等	該 当 者	摘 要
2	検 定 料 30,000円	全員 (国費外国人留学生は不要です。願書裏面の該当箇所にチェックしてください。)	①受験料・選考料のお支払い⇒【大学院】をクリック ②大学院／千葉大学大学院 ③第一選択：教育学研究科 ④第二選択：修士課程 ⑤第三選択：現職教員特別選抜○回または一般選抜 ⑥第四選択：大学院検定料3万円 ①～⑥の順に選択してください。決済完了後の修正・取消はできませんのでご注意ください。 ※払込手順等はE-支払いサービスWebサイトの「利用ガイド」を参照してください。ご不明な点は、同サイトの「よくある質問」を確認の上、E-支払いサービスサポートセンターに問い合わせてください。 ※検定料のほかに所定の利用手数料（志願者負担）がかかりますのでご了承ください。 (3) 払込後の手続： 収納証明書を入学願書の裏面に貼付し提出してください。 収納証明書の取得方法は以下のとおりです。 ・コンビニエンスストア決済 (デイリーヤマザキを除く) の場合 →店舗で受け取ってください。 ・銀行ATM (ペイジー)、ネットバンキング、クレジットカード、コンビニエンスストア決済 (デイリーヤマザキ) の場合 →E-支払いサービスWebサイトの「申込内容照会」から印刷してください。 (4) 一旦納入された検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って支払い、出願しなかった者が令和8年3月31日(火)までに所定の返還手続を行った場合は、検定料の全額を返還します。返還手続の詳細については、教員養成系総務・学務課入試係に確認してください。 ■ E-支払いサービスについて (https://e-shiharai.net/) インターネット上から、コンビニエンスストア、ペイジー、ネットバンキング、クレジットカードから希望の払込方法を選択の上、検定料の払込等ができるサービスです。 ※当サイトへの事前申込が必要です。 ■ 海外から志願される方へ ※英語版サイト (https://e-shiharai.net/ecard/) こちらはクレジットカード決済のみの案内となります。決済後、印刷した「Result Page」を出願書類と共に提出してください。

	出 願 書 類 等	該 当 者	摘 要
3	成 績 証 明 書	全員	出身大学等の長が作成した証明書を提出してください。 ※和文・英文以外の証明書には、和訳を添付すること。
4	卒 業 証 明 書 又 は 卒 業 見 込 証 明 書	出 願 資 格 (1) 及 び (3)～(8)のいずれかに該当する資格で 出願する者	出身大学長又は学部長等が作成した証明書を提出してください。 ※和文・英文以外の証明書には、和訳を添付すること ※出願資格(6)で出願する場合には、外国の大学その他の 外国の学校の課程を修了した際に学士の学位に相当する 学位を授与されていることが卒業（見込）証明書に 記載されていること
5	学位授与証明書又は 学位授与の申請を 受理した旨の証明書	出願資格(2)に該当 する資格で出願す る者	大学改革支援・学位授与機構が作成した証明書を提出し てください。 なお、出願時点で学位授与の申請が受理される前の場合 には、出身短期大学長又は高等専門学校などが作成する 学位授与を申請する旨の証明書を提出してください。
6	専攻科修了証明書 又は専攻科修了 見込証明書	出願資格(2)に該当 する資格で出願す る者	短期大学長又は高等専門学校長が作成した専攻科の修了 (見込) 証明書を提出してください。
7	教育職員免許状の 授 与 証 明 書 等	認定こども園に勤 務する者★ ¹⁾ 又は 出願資格(8)に該当 し、教育職員免許 状を授与された者	次のいずれかを提出してください。 ・教育職員免許状授与証明書（免許状を授与した都道府 県教育委員会が作成したもの） ・教育職員免許状の写し（原本と相違ない旨の所属長又 は所轄長の証明が必要） ★1）現職教員特別選抜に出願する者のうち、認定こど も園に勤務する者は幼稚園教諭免許状に関する授与 証明書等を提出してください。
8	在 職 証 明 書	現職教員特別選抜 に出願する者	所属長が作成した証明書を提出してください。 ※志願者の氏名、現在勤務している学校等における在職 期間並びに職名（教諭等）を記載して公印が押された もの、それ以外の書式は自由です。
9	志 望 理 由 書	全員	本学所定の用紙に入学を志望する理由等を記入して提出 してください。
10	研 究 計 画 書	全員	本学所定の用紙に入学後に研究したい内容等を記入して 提出してください。
	研 究 資 料	提出可能な者	研究計画書に記載した研究資料のうち、詳細が分かる資 料を提出可能な場合には、3点以内で提出してください。 (提出ができる場合のみ提出) ※原則として返却しないのでコピーでの提出も可。また 個人名の業績でなく連名の業績でもかまいません。 ※紙以外の媒体（CDなど）は受理しません。
11	教 育 実 践 ・ 研 究 報 告 書	現職教員特別選抜 に出願する者又は 一般選抜に出願す る者のうち、教員 経験がある者	本学所定の用紙にこれまでの教育現場での実践や研究を 記入して提出してください。

	出 願 書 類 等	該 当 者	摘 要
12	戸 籍 抄 本	提出する証明書と現在で氏名が異なる者	
13	専 門 領 域 問 題 記 入 事 項	一般選拔出願者のうち、音楽教育問題群又は美術教育問題群を選択した者	本学所定の用紙に受験する専門領域問題での必要事項を記入してください。
14	受験票返送用封筒	全員	この要項の末尾に綴じ込んである封筒に切手410円を貼付し、郵便番号、住所、氏名を記入してください。
15	宛 名 シ ー ル	全員	郵便番号、住所、氏名等必要事項を記入してください。
16	外国人留学生履歴書	外国人志願者	本学所定の用紙にこれまでの学校教育期間の詳細等を記入してください。
17	住 民 票 の 写 し	外国人志願者	本人在住の市区町村発行のもの（在留資格及び在留期間が掲載されており、かつ個人番号（マイナンバー）が記載されていないもの）。 ※「住民票の写し」は市区町村役場で発行されるもので、ご自分でコピーしたものではありません。住民登録をしていない場合は、パスポートのコピーを提出してください。（本人の氏名、生年月日、性別、在留資格を表示する部分及び日本国査証の部分）

注意

- ・ 証明書類は、全て原本が基本です。複写、ファックスや公式でない印刷物は受理できません。また、一度受理した申請書類は返却いたしません。再発行されない原本を提出する場合、出願前に教員養成系総務・学務課入試係に必ず相談してください。（出願資格確認のため、上記以外の書類を提出していただくことがあります。）
- ・ 出願資格認定の際に成績証明書、卒業証明書、履歴書などを提出している場合は、その書類は再度提出する必要はありません。
- ・ 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ・ 入学後、現職教員等に対しては、教育方法の特例措置があります。また、職業を有する者等に対しては、長期履修学生制度があります。詳しくは、13ページ「10 昼夜間開講について」、「11 長期履修学生制度について」を参照してください。
- ・ 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。
- ・ 出願書類のうち「本学所定の用紙」については、募集要項に同封されているもの又は、HPに掲載されている様式（Word）を利用して作成してください。Word様式を印刷する際には、任意の厚紙を利用し両面印刷で印刷すること。
- ・ 郵便料金は2025年3月時点の料金ですが、料金の改定が行われた場合には、変更後の料金の切手を貼付してください。

5 選抜方法

(1) 現職教員特別選抜の選抜日程及び選抜方法

現職教員特別選抜出願者の入学者選抜は、学力検査（口述試験）の結果ならびに研究計画書等の提出書類を総合して行います。

① 試験日時及び試験科目

選 抜	試 験 日 時	試 験 科 目
現職教員特別選抜（第1回）	令和7年8月24日（日） 9：00～17：00（予定）	口述試験
現職教員特別選抜（第2回）	令和7年11月9日（日） 13：30～17：00（予定）	口述試験

（注）教員として授業で扱ってきた教材についての実践力をみることがあります。

（詳細は受験票送付時に通知します。）

② 試験場

千葉大学教育学部校舎で行います。なお、試験当日は必ず受験票を持参してください。

（受験に関する注意事項等の詳細については、受験票送付の際に同封いたします。）

(2) 一般選抜の選抜日程及び選抜方法

一般選抜出願者の入学者選抜は、学力検査（筆記試験等・口述試験）の結果ならびに成績証明書、志望理由書等の提出書類を総合して行います。

① 試験日時 令和7年11月9日（日）

系		試 験 時 間 割		
教育発達支援系		必須科目 9：00～9：40	選択科目 10：00～12：00	口述試験 13：30～17：00（予定）
横断型授業づくり系				
言語・社会系				
理数・技術系				
芸術・ 体育系	音楽教育 問題群		選択科目 (共通問題) 10：00～11：30	選択科目（専門領域問題）・ 口述試験 13：30～17：30（予定）
	美術教育 問題群	選択科目 10：00～12：00	口述試験 13：30～17：00（予定）	
	保健体育 問題群			

② 試験科目

系	試験科目・問題群		内 容
教育発達支援系	必須科目（小論文）		
	選択科目 ※ 4つの問題群から1つの問題群を選択して出願	学校心理問題群	「教育心理学に関する問題」について共通問題と選択問題を出題する。 ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
		幼児教育問題群	「発達心理学・幼児教育に関する問題」について共通問題と選択問題を出題する。 ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
		養護教育問題群	「養護教育分野に関する問題」について共通問題と選択問題を出題する。 ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
		特別支援問題群	「特別支援教育学に関する問題」について共通問題と選択問題を出題する。 ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
	口述試験		研究計画書に基づいて行う。
横断型授業づくり系	必須科目（小論文）		
	選択科目	横断型授業づくり問題群	「授業づくりならびに教育と社会に関する問題」について共通問題と選択問題を出題する。 ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
	口述試験		研究計画書に基づいて行う。
言語・社会系	必須科目（小論文）		
	選択科目 ※ 4つの問題群から1つの問題群を選択して出願	国語教育問題群	・「国語教育基礎」について共通問題を出題する。 ・「国語科教育」, 「国語学」, 「国文学」, 「書写書道」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
		英語教育問題群	・「英語科教育」について共通問題を出題する。 ※英語問題を含むが辞書持ち込みは不可 ・「英語教育学」について専門領域問題を出題する。 ※英語問題を含むが辞書持ち込みは不可
		社会科教育問題群	・「社会科教育基礎」について共通問題を出題する。 ・「社会科教育」, 「歴史学（日本史）」, 「歴史学（外国史）」, 「地理学」, 「法律学」, 「政治学」, 「経済学」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
		家庭科教育問題群	・「家庭科教育基礎」について共通問題を出題する。 ・「家庭科教育」, 「食物学」, 「被服学」, 「家庭経営学」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1 参照
	口述試験		研究計画書に基づいて行う。

系	試験科目・問題群		内 容
理数・技術系	必須科目（小論文）		
	選択科目 ※3つの問題群から1つの問題群を選択して出願	理科教育問題群	・「理科教育一般」について共通問題を出題する。 ・「理科教育学」,「物理学」,「化学」,「生物学」,「地学」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
		数学教育問題群	・「算数・数学科教育一般」について共通問題を出題する。 ・「数学教育学」,「代数学」,「幾何学」,「解析学」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
		技術教育問題群	・「技術科教育一般」について共通問題を出題する。 ・「技術科教育学」,「機械」,「電気」,「木材加工」,「栽培」,「情報基礎」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
	口述試験		研究計画書に基づいて行う。
芸術・体育系	必須科目（小論文）		
	選択科目 ※3つの問題群から1つの問題群を選択して出願	音楽教育問題群	・「音楽科教育」について共通問題を出題する。 ・「実技（声楽・器楽）」について専門領域問題を出題する。(下記の注3を参照のうえ「専門領域問題記入事項」の用紙に必要事項を記入して出願) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
		美術教育問題群	・「美術教育」について共通問題を出題する。 ・「美術教育理論」,「美術理論・美術史」,「実技（鉛筆写生）」について専門領域問題を出題する。(注4を参照のうえ,1問選択し「専門領域問題記入事項」の用紙に必要事項を記入して出願) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
		保健体育問題群	・「保健体育科教育学」について共通問題を出題する。 ・「運動学」,「体育学」について専門領域問題を出題する。(受験時に1問選択して解答) ※辞書持ち込み可。詳細は注1参照
	口述試験		研究計画書に基づいて行う。

〔注〕1 選択科目のいずれの問題においても英語問題を含むことがありますので、選択科目の受験時には辞書の持ち込みを可能とします。(英語教育問題群を除く)

※持込可能な辞書は、書籍の形をとったものに限り、日本人も外国人志願者も英和辞書1冊のみ（和英辞書と合冊になっているものは不可）となります。

2 研究計画書に記載した資料のうち、詳細が分かる資料を提出可能な場合には、願書とともに送付してください。

3 音楽教育問題群の専門領域問題（実技）については、以下のとおり実施します。

(1) 声楽：下記の2曲を課題とする。(伴奏者は各自同伴。本学では用意しない。)

ア 外国歌曲又はオペラのアリアの中から任意の1曲（原語による。オペラのアリアは原調。)

イ 日本歌曲の任意の1曲

(2) 器楽（ピアノ）：任意の1曲を演奏する。(反復はしない)

※(1)(2)については、受験曲名、作曲者名を「専門領域問題記入事項」に記入のうえ、入学願書に添えて提出すること。演奏は暗譜。

- 4 美術教育問題群の受験者は、口述試験にあたって研究計画に関連するこれまでの活動内容がわかる資料等がある場合には、試験当日に持参してください。資料の例は、作品制作や、その他美術に関する活動の履歴が分かる写真や資料のファイルなどです。

美術教育問題群で「実技（鉛筆写生）」を選択した受験生は、鉛筆写生に必要な用具を持参してください。画板、画用紙は用意してあります。

③ 試験場

千葉大学教育学部校舎で行います。なお、試験当日は必ず受験票を持参してください。

（受験に関する注意事項等の詳細については、受験票送付の際に同封いたします。）

6 障害等のある入学志願者の事前相談

本研究科に出願を希望する者で、障害等があり、受験上又は修学上特別な配慮を必要とするものは、出願に先立ち、あらかじめ本研究科に事前相談の申請を行ってください。

なお、出願後の不慮の事故等による負傷で受験上又は修学上特別な配慮が必要になった者についても、速やかに事前相談を行ってください。

(1) 申請方法

申請する場合は、次のア及びイを(3)あてに提出してください。提出された書類に基づき、本研究科関係者で検討を行います。

ア 事前相談申請書（本研究科所定の用紙）

申請書の入手方法は、教員養成系総務・学務課入試係（教育学部1号館1階事務室）の窓口で直接受け取るか、郵送により入手してください。郵送により入手する場合は、「事前相談申請用紙請求」と朱書きした封筒に、110円分の郵便切手を貼った返信用封筒（長形3号：約12×23.5cm、表面に郵便番号、住所、氏名を明記してください）を同封し(3)あてに送付してください。

イ 医師の診断書（障害の程度及び必要とする具体的な措置等を記載したもの）

(2) 事前相談の締切日

選 抜	締 切 日
現職教員特別選抜（第1回）	令和7年6月27日（金）
現職教員特別選抜（第2回）	令和7年9月17日（水）
一般選抜	

相談の内容によっては、対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(3) 書類提出先・問い合わせ先

千葉大学教員養成系総務・学務課入試係（教育学部1号館1階）

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号 電話：043-290-2515

7 合格者発表

選 抜	合 格 発 表
現職教員特別選抜（第1回）	令和7年9月16日（火）14時 ※9月22日（月）まで掲示します。
現職教員特別選抜（第2回）	令和7年12月8日（月）14時 ※12月12日（金）まで掲示します。
一般選抜	

教育学部掲示板に掲示し、合格者には合格通知書を「宛名シール」に記載した「受信場所」に簡易書留で郵送します。（電話による照会には一切応じません）

千葉大学教育学部ホームページ（URL：<https://www.education.chiba-u.jp/>）にも掲載します。

●掲載期間

現職教員特別選抜（第1回）：令和7年9月16日（火）15時（予定）～9月22日（月）15時

現職教員特別選抜（第2回）・一般選抜：令和7年12月8日（月）15時（予定）～12月12日（金）15時

8 入学手続について

令和6年度入学手続から「WEB入学手続システム」を導入しています。

合格者の皆様の利便性を図るため、システムを利用いただくことで大学への来校を不要とし、入学料納入もクレジットカード決済やコンビニエンスストア決済とします。「WEB入学手続システム」や「入学手続」の詳細は千葉大学ホームページへ掲載し、合格者の皆様には合格通知書とともに手続方法の案内を発送します。（入学手続に必要な書類などの詳細については、合格者に令和8年2月中旬頃に郵送にてお知らせいたします。）

※卒業見込で出願した者は、卒業証明書を提出いただくことになります。

9 入学手続時に要する経費

(1) 入学料 282,000円（予定）

・入学料の納入方法は、コンビニエンスストア決済、銀行ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカードのいずれかが可能です。詳細は合格者発表後に送付される入学手続関係書類にてご確認ください。

・授業料は前期分・後期分授業料はそれぞれ321,480円（年額642,960円）（予定）です。

なお、授業料の納入については、入学後の前期分授業料は5月に、後期分授業料は10月に口座振替により納入願います。口座振替手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。

また、次年度以降、前期分授業料は4月が口座振替の月となります。

・入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。

(2) 入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は、千葉大学ホームページをご覧ください。 <https://www.chiba-u.ac.jp/students/payment/exemption.html>



(3) 学生教育研究災害傷害保険料

2,430円（2年分・付帯賠償責任保険を含む）、全員加入

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人

にケガをさせたり、他人の財物を損壊した場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。

詳細は、千葉大学ホームページをご覧ください。

https://www.chiba-u.ac.jp/for_school-life/support.html#s_003

10 昼夜間開講について

本研究科では、「教育方法の特例」として大学院設置基準第14条「夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」を適用することにより、現職教員等が高度の専門的教育を受ける機会を拡大して提供しています。

平日の授業は昼夜間開講ですが、さらに土曜日や短期間で行われる集中講義なども利用して履修を進めることが出来ます。これによって、働きながら通学する場合、1年間は昼間履修で残り1年間は夜間履修、2年間とも夜間履修といった多様な修学形態が可能になります。

11 長期履修学生制度について

大学院設置基準第15条は、長期にわたる教育課程の履修を認めることができるとしており、本研究科ではこれを受けて、長期履修学生制度を設けています。長期履修学生制度は、職業を有している等の事情で、通常の学生よりも1年間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が制約され、本研究科の標準修業年限の2年間を超えた在学をしなければ課程を修了することができない者を対象とします。そうした事情にある者は、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程の修了を希望する旨、申請することができます。申請に基づき、研究科が審査し、標準修業年限を超えた在学期間をあらかじめ認めます。

長期履修学生として認められた場合、授業料年額は、通常の学生が標準修業年限に支払う授業料の総額を、長期在学期間として認められた期間の年数で均分して支払うことになります。

申請の仕方、申請の時期等についての説明文書を入学手続関係書類に同封する予定です。詳しくはそちらをご覧ください。

12 大学院修学休業制度について

「大学院修学休業に関する制度」などの制度を利用すると、教職を持ちながら大学院での修学が可能になります。千葉県の場合、制度を利用すると3年を超えない範囲内で休業が認められます。

また自治体によっては、このほかにも大学院での修学をサポートする制度がある場合があります。条件や申請方法に関する詳しい情報はそれぞれの教育委員会にお問い合わせください。

13 科目等履修生制度について

大学院在学中に教育学部の科目等履修生となる場合は、入学料及び授業料等が免除され、年間履修単位の上限（半期6単位（年間12単位））はありますが、教育学部で開講する授業科目の履修が可能です。（学部授業は昼間開講のみとなります。）

なお、教員免許状取得のために科目等履修生となる場合には、教育学部開講の教員免許状取得に必要な科目の一部を履修することができます。その際、年間履修単位の上限は20単位まで認められますが、大学院の授業履修が優先であること、都合のよい日時に開講していない等のため、必ずしもご自身の教員免許状取得に必要な科目を履修できるとは限りませんので、十分に注意してください。

14 教育職員免許状の取得について

本研究科を修了すれば自動的に専修免許状を取得できるわけではありません。一種免許状を所持する者が本研究科在学中に所定の科目の単位を修得することにより専修免許状の取得が可能となります。

所持する免許状が二種免許状のみでは、専修免許状は取得できません。本研究科修了により一種免許状を取得することもできません。ただし、大学院在学中に、別途学部の科目等履修生となり、不足単位分を履修し、一種免許状を取得する方法もあります。不足単位が多い場合は、在学する2年間では取得困難な場合もありますので、事前にご相談ください。大学院在学中に一種免許状を取得した場合は、修了後に専修免許状の取得が可能です。

※修了時、ただちに専修免許状が必要となる場合、最終年次の9月中に一種免許状を取得してください。

科目等履修生の制度を利用し、一種免許状取得に必要な科目の一部を履修する方法がありますが、必ずしもご自分に必要な科目が履修できるとは限りませんのでご注意願います（前述13参照）。

15 保育園について

西千葉地区に学生も利用できる保育園があり、利用者が定員を満たしていない場合に限り申込みができます。詳細は、学務部学生支援課（TEL：043-290-2178）にお問い合わせください。

16 通学について

大学の西千葉地区では、構内歩行者の安全を期すため車両の入構規制を実施しており、自動車・自動二輪（原付を含む）による通学は全面的に禁止しています。ただし、身体に障害がある等、特殊事情のある者は入学後に教員養成系総務・学務課学生支援係にご相談ください。また、自転車での通学には「入構許可ステッカー」（800円／年）が必要となります。

17 注意事項

- (1) 試験日前日の9時（予定）より、注意事項を教育学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願手続後は、書類の返却及び記載事項の変更は認めません。
- (3) 納入した検定料は原則として返還しません。

不明な点があれば、下記にお問い合わせください。

願書提出先・問い合わせ先

千葉大学教員養成系総務・学務課入試係（教育学部1号館1階）
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
電話：043-290-2515 E-Mail：hai2514@office.chiba-u.jp

千葉大学大学院教育学研究科・修士課程・学校教育学専攻の概要

1 学校教育学専攻の教育目的と特徴

千葉大学大学院教育学研究科は、「学部における一般的並びに専門的教育を基礎とし、広い視野に立って精深な学識を授け、教育の理論・実践を創造的に推進し得る人材を育成すること」（千葉大学大学院教育学研究科規程）を目的としています。

近年、日本の教育に対しては、学力の低下やその格差増大等の学習に関する課題、いじめをはじめとする人間関係や心に関する課題、体力低下や不適切な生活習慣等の体や健康に関する課題など多様な問題が指摘されています。また、教育現場へは家庭や地域を含む学校外からの期待も大きく、さまざまな社会的要請を受ける状況にあります。

学校教育学専攻では、そのような現状を踏まえ、学校教育の現代的な課題について領域横断的に広い視野を持ち、教育現場と密接に関わる実践的な学びと専門とする教科・領域に関わる先端的な知識をつなげ、教科内容等を探究し、修士論文研究を通して現代の学校教育に寄与する実践的な研究を行う能力を養います。希望する者については、海外での教育・研究活動を経験させ、国際的な視野をもって国内外の教育に貢献できる能力を養います。

昨今では、学校教育を取り巻く状況が大きく変化し、教員は知識・技能の絶えざる刷新が必要になっています。ICTをはじめとするイノベーションのたゆまぬ進化による情報化社会の進展は、産業構造を大きく変え続け、組織や国の枠組みを超えて人々が連携協力しながら働き、社会生活を営むことを可能にしてきました。日本においては経済成長や人口増加が止まり、少子高齢化や人口減少を前提とした社会のあり方の再構築が求められています。社会のこうした変化を背景として、学校教育には、多様な他者との協力のもと、幅広い知識や技能を活用して未解決の問題を解決する力の育成が求められています。そして、今後の学校教育を担う教員には、これまでの学校教育の成果を十分に踏まえつつも、新たな教育内容や教育方法の開発に取り組み、多様な学習者が協働して学ぶ教育実践を創造する力量を形成することが求められます。

学校教育を取り巻く状況の変化に対応し、幅広い視野と研究的な専門性とを併せ持つ授業づくりに強い教員の育成、教科教育・特別支援教育・幼児教育・養護教育等の分野の高度専門職業人の育成、心理学や教育学の分野で実践的な研究のできる教育研究者の育成、国際的に活躍できる留学生の教育等を可能とする専攻として学校教育学専攻を設置しています。

2 教育課程編成の方針

教育学研究科・学校教育学専攻では、以下のような教育課程編成の方針を設けています。

(1) 課程編成の基本的な考え方

本専攻では、専門性と視野の広さとを併せ持って学校教育に実践的に貢献できる人材を養成するために、特定の専門領域や教科などの原理や背景学問を探究する「教育発達支援系」「言語・社会系」「理数・技術系」「芸術・体育系」の4つの系に加え、変化する社会の状況に対応した授業実践の開発を主題とし、複数の専門領域を横断的に学ぶ「横断型授業づくり系」を設けました。「横断型授業づくり系」を中心に、各系がゆるやかに連携して教育研究を行い、個々の領域における専門性を維持しつつ、専攻全体で視野の広い教育研究を推進できる体制をとっています。学生は、自分の研究テーマを基に、いずれかの系に属し、学校教育に関する広い視野の獲得を目的とする「専攻必修科目」、専門性の担保と近接領域への関わりを

目的とする「系選択必修科目及び系選択科目」，学校現場に貢献する力量の向上を図る「教育実践・教育研究に関する科目」，個々の研究テーマに基づき修士論文に向けた研究指導を目的とする「課題研究」，専門以外の領域について主体的に学ぶ「選択科目」を履修します。

科目区分		単位数	備 考
専攻必修科目 「学校教育学特論Ⅰ」 「学校教育学特論Ⅱ」		4	多様な専門分野の教員による授業を通して，専攻の全ての領域についての理解を深める。学校教育全体を俯瞰できる力をつける。横断型授業づくり系の教員がコーディネーターとなり，実践力・授業開発力の向上を図る。
系に関する科目	系選択必修科目	4	系における専門領域について学際的な理解を深める。
	系選択科目	6	専門領域の内容を深める。
教育実践・教育研究に関する科目		6	様々な実習プログラムを通じて，高度専門職業人としての実践力を高める。各分野の研究プロセスや教育データサイエンスへの理解を深め，高い研究力の獲得を図る。
課題研究		4	修士論文等の作成につながるもので，少人数の規模で研究指導をする。
選択科目 (系に関する科目及び教育実践に関する科目，ツインクルプログラム，大学院共通科目から選択)		6	系選択必修科目及び系選択科目は原則として系以外の学生にも開放。グローバル化対応科目（ツインクルプログラム）や大学院横断型授業として大学院共通科目を開設。
合 計		30	

(2) 専攻必修科目

学校教育学専攻の全学生は必修科目として「学校教育学特論Ⅰ」及び「学校教育学特論Ⅱ」を履修します。この科目は横断型授業づくり系の教員を含む数名の教員がコーディネーターとなり，専攻全体の教員が交代で授業を担当し，それぞれの立場からの問題提起を学生たちに行います。この専攻必修科目を履修することを通して，全学生が基礎的な素養を身に付けるとともに，学校教育に関する教科横断的な広い視野を持ち，自分が専門とする領域の位置づけや特色を意識できるようにします。

(3) 系選択必修科目及び系選択科目

系選択必修科目及び系選択科目においては，個々の学生がそれぞれのニーズに応じて，専門的な課題について近接の領域とも関わりながら学修を深められるようにします。多くの授業でアクティブ・ラーニングを実施し，近接領域を学ぶ者同士が，学問に向かう互いの姿勢を理解し，自らの専門領域を相対化して学ぶことを可能にします。系選択必修科目・系選択科目として履修すべき科目を限定することで，専門性を担保するとともに近接領域と関わりながら学ぶことを促します。

(4) 教育実践・教育研究に関する科目

教育実践・教育研究に関する科目として，様々な形態で学校現場に関わり，そこでの課題を研究する「教育実践に関する科目」と，各分野の研究手法や教育データサイエンスに関する理解を深め，研究力の更なる向上を目指す「教育研究に関する科目」が設定されています。

(5) 課題研究

課題研究は、指導教員を中心とし、他の教員も関わる形で、修士論文執筆に向けての研究指導を段階的に行います。

(6) 選択科目

本専攻で開講している全ての科目は選択科目として履修要件を満たしていればどの学生でも履修することができます。専門以外の領域についても学生自らの興味関心に合わせて主体的に学修を深めることができるようにしました。国際教育貢献に関する科目も設けています。

(7) 千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”に伴う全員留学について

千葉大学では、2020年度以降入学者は、原則として、在学中に1回以上留学し当該留学に係る単位を修得することが必要となります。

ただし、大学院教育学研究科においては、海外で開催される学会等への参加・発表や海外大学の研究室訪問や海外企業の視察を実施するなど、学生自身の研究等に資する海外での活動の実施も「留学」の対象となります。この場合は単位修得を伴う必要はありません。

3 各系の概要と教育プログラムの特徴

新たな学校教育学専攻（修士課程）は、横断型授業づくり系を核とし、各系が独自の課題を担って、教育研究を行います。なお、研究分野の詳細は、「教育学研究科学校教育学専攻教員一覧」の「専門分野」を参照してください。

① 【教育発達支援系】

本系では特別支援教育、幼児教育、養護教育等の専門的な課題並びに学校心理学の分野での研究について、心理学や医学の知見を基盤に扱う系です。

子どもの発達を促す場としての学校教育現場が直面しているさまざまな課題に応えるために、学際的なアプローチが必要とされています。教育発達支援系では、乳幼児期から青年期に至る子どもの学習過程、身体的・認知的・社会的発達の過程、発達障害児を含む障害児の教育支援、幼児・児童・生徒の健康の支援等について幅広い知識と実践力を備え、今日的課題に対応できる人材の育成を目指しています。

本系では、学校心理学、学習・動機づけ心理学、発達心理学、保育・幼児教育、特別支援教育、学校ヘルスプロモーション、養護教育に関する領域の研究を深めるとともに、研究テーマに応じて、関連する領域（分野）へと視野を広げた研究を進めることもできます。

② 【横断型授業づくり系】

変化する社会の状況に対応した新しい教育実践の開発をするとともに、これまで困難とされていた内容を取り扱う授業ならびに教育の現代的課題について、実際に教育の現場での取り組みや授業づくりを通して考えることをねらいとします。領域、教科、学校種別、学校と学校外の社会、日本と国外といったさまざまな境界を横断した教育研究を扱います。従来の教科・領域の枠組みにとらわれない新しいカリキュラムや単元を学生が開発し、実際に学校現場で授業として実践すること、また、教育の現代的課題について社会の変化に対応した新たな授業や教育実践が展開できる人材を育成します。本系では、授業づくりに強い教員、教育の現代的課題の解決に向けて取り組める行政担当者をはじめ、教員養成大学の教員となる研究者の養成を目指します。

③ 【言語・社会系】

現在の人々の言語活動や生活・行動様式、及びその背景となっている価値や文化は、複雑な経路を経て現在に至っています。あるときは過去の人々のそれらを継承し、あるときは異なる価値や文化との交渉・相互作用によってあらたな価値や文化へと発展してきました。21世紀では、ボーダーレス化、ネット社会化、価値多様化など、人々の生活・行動様式を旧来の価値や文化で捉えることは困難となりつつあります。このような状況の中で、継承すべき価値や文化とはなにか、発展・創造すべき価値や文化について検討することが必要とされています。言語・社会系では、人々の言語活動や生活・行動様式を「人間と文化」という共通概念から捉えなおし、その学術的研究成果を教育という場で実現する為に必要な資質・能力を持つ人材の育成を目指しています。本系では、国語教育、英語教育、社会科教育、家庭科教育の各分野の研究を深めるとともに、研究テーマに応じて、関係分野に視野を広げて研究を進めることができます。

④ 【理数・技術系】

自然やテクノロジーに関わる科学、数学、工学の知識は広大で、その変化は極めて激しくなっています。その中で、子どもと共に課題を設定しその解決過程を導きながら、より高い目標に到達するためには、数学のおもしろさと実用性、多様な自然の真の姿、自然の機能やその制御に関する知恵と工夫等を俯瞰する高い視点を持つことが不可欠になっています。また、それらを踏まえた幅広い指導力を会得するには、具体的・現実的な課題の背後に潜む重要な論点とその関連性、数学的考察力、自然科学的認識、実験・実習・ものづくりの技法、工学的発想さらにはそれらの学習と指導上の問題等を理解する必要があります。本系では、学校教育における自然科学・数学や工学に関わる学習の意義と方法を、より豊かに創成し続ける人材の育成を目指しています。

⑤ 【芸術・体育系】

音楽表現、美術表現、身体表現の各研究を通して、自らを表現したり表現されたものを感じ取ったりすることは人間の成長にとって不可欠なものです。こうした表現を研究し、そこから新しいものを創造するとともに今までの知見を将来へと伝承する研究は、子どもの学びや生活を豊かにする上でより重要になっています。芸術・体育系では、「表現」とともに「感性」「感覚」「伝承」「創造」「鑑賞」等を系の共通概念と位置づけ、これからの教育の中核を担う教員に必要な資質・能力として涵養することを目指しています。さらに、その学術的研究の成果を教育の場で活かす実践力を身につけた人材の育成を目指しています。

本系では、音楽教育、美術教育、体育の各分野の研究を深めるとともに、研究テーマに応じて、関係分野に視野を広げて研究を進めることができます。

4 教育学研究科・修士課程・学校教育学専攻 教員一覧

◎令和9年3月31日で定年予定の教員

○令和10年3月31日で定年予定の教員

氏 名	役職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

教育発達支援系

大 芦 治	教授	教育心理学, 健康心理学, 行動病理学 (学校心理)
教育心理学のなかでもやる気, 意欲(専門的には動機づけ)やその対概念としての無気力などの研究を主要なテーマにしてきた。これらの概念を鍵に学校における児童・生徒の諸問題を解明したり, また, 心理学における動機づけ理論の意義についても関心を持っている。		
岩 田 美 保	教授	発達心理学, 教育心理学 (学校心理)
幼児・児童期の社会・言語的コミュニケーションの発達の検討が主要なテーマである。特に, 園・学校(学級)・家庭場面での子どもの感情発達に関わる社会的相互作用に関心を持っている。		
小 山 義 徳	教授	教育心理学, 教授心理学, 認知心理学 (学校心理)
質問生成のメカニズムの解明と, 自ら疑問を生成し, 調べ, 学ぶ自律的な学習者を育てるにはどのような介入が有効かを検討することが現在の研究テーマである。教科教育としては, 特に英語教育に関心があり, 人がどのように情報を処理し, 理解しているかに興味を持っている。		
西 口 雄 基	准教授	認知臨床心理学, 教育心理学 (学校心理)
うつや不安などの精神的な不適応について, 特に認知心理学やパーソナリティ心理学の観点から研究している。対人関係とメンタルヘルスの関係についても研究を進めており, 職場や教室における心理的適応にも関心がある。		

砂 上 史 子	教授	保育学 (幼児教育)
幼児教育・保育の質の向上につながる実践的課題を研究する。具体的には幼児期の遊び, 子ども同士の相互作用, 保育者の実践知, 保護者支援などに関して, 観察やインタビュー等による質的研究を行っている。		
中 道 圭 人	教授	発達心理学(認知発達) (幼児教育)
子ども(乳幼児・児童)の「思考の発達」や「思考・行動を制御する能力(自己制御)」が主要な研究テーマである。また, それらと関連して社会的認知や養育・保健環境に関する研究も行っている。		
駒 久美子	准教授	音楽教育学 (幼児教育)
幼稚園等で見られる子どもの音楽活動・音楽行動に焦点をあてた質的研究を行っている。主たる研究テーマは, 子どもの音楽的創造性であるが, 子どもの集団的音楽表現における活動空間にも着目して研究を行っている。		
佐 藤 有 香	准教授	保育学 (幼児教育)
保育者の専門的行為や実践知の可視化が主な研究課題である。特に, 実践場面での保育者の「子ども理解」に関心があり, その様相について, 量的・質的なアプローチを組み合わせ研究を行っている。		
淀 川 裕 美	准教授	幼児教育学・保育学 (幼児教育)
保育・幼児教育施設で生成する対話やその変容について, 継続的な観察やインタビューの方法で研究している。また, 保育者の学びや育ちのプロセス, 保育の質やその評価に関して定量的, 定性的に研究している。		

○花 澤 寿	教授	思春期精神医学, 精神病理学 (養護教育)
思春期青年期の心理, 問題行動, 精神障害の精神病理学的検討および治療論(精神療法)。特に摂食障害(拒食症・過食症)の精神病理(発症過程, 症状論, 回復過程の研究等)と治療法について。		
野 村 純	教授	免疫生化学, 重力生理学, ストレス科学 (養護教育)
体・健康の基本となる細胞に注目し, ストレス応答機構を分子生物学的手法で解析しており, 特に創傷治癒促進因子を機械的ストレスの視点から研究している。また, 大学が関わる中高校生への科学教育の新しい可能性についても研究している。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

三 森 寧 子	准教授	養護学，学校看護学 (養護教育)
多くの学校で一人職種である養護教諭としての成長のあり方やそのための養護教諭の倫理教育を研究課題としている。また，多様な養成機関で行われている養護教諭養成教育のあり方を探究する中で，養護教諭が行う救急処置やフィジカルアセスメント，ソーシャルキャピタルを基盤とした幼児教育における養護教諭の必要性も課題として取り組んでいる。		
高 谷 里依子	准教授	小児科学，小児保健学 (養護教育)
子どもたちを取り巻く環境と健康状態との関わりが主なテーマである。特に学校環境および生活習慣が子どもたちの心身の健康へ与える影響について興味を持っている。		
沖 津 奈 緒	助教	養護実践，養護教育，学校保健 (養護教育)
養護教諭と児童生徒の相互作用及び児童生徒の健全な成長を支える環境を探究している。広くは，困難や生きづらさを抱えた児童生徒が回復・成長に向かう体験とその支援に関心がある。現在は，学校に行きづらい経験の意味や，回復・成長の心理社会的資源，保健室や養護教諭の実践の価値および実践課題の検討に取り組んでいる。		

○北 島 善 夫	教授	障害児心理学 (特別支援)
生理心理学，神経心理学，発達心理学を背景として，障害児心理学を学び，障害児理解の専門性を高める。前言語期にある重い障害児のコミュニケーションを促す指導を考える。文献：重症心身障害児の認知発達とその援助。		
細 川 かおり	教授	障害児指導法 (特別支援)
知的・発達障害の幼児や児童生徒の指導・支援方法について，授業における子どもの学び，授業実践と支援，インクルーシブ保育に関する研究を行っている。また子どもの発達臨床支援とその方法について検討している。		
石 田 祥 代	教授	障害児教育学 (特別支援)
インクルージョンの観点から，配慮が必要な児童・児童家庭を包括的に支援するためのシステムに関する研究を行っている。加えて，北欧におけるインクルーシブ教育について継続的に研究を行っている。		
宮 寺 千 恵	准教授	障害児心理学 (特別支援)
発達障害の子どもにおける心理・行動特性を明らかにするために，心理学的手法を用いた研究を行っている。また，学校や小集団場面における発達障害児への支援の方法について検討している。		
真 鍋 健	准教授	障害児の心理，支援 (特別支援)
障害の早期発見・支援から学童期に至るプロセスの中で，継続的に学びを保障させるための手法を検討している。このために，子どもへの発達援助，保護者支援，機関間連携等について実践研究を主に進めている。		

横断型授業づくり系

◎羽 間 京 子	教授	非行心理学，臨床心理学
①非行少年・犯罪者の的確なアセスメントと自立支援のあり方，②非行と虐待の関連について研究を行っている。薬物乱用者と性犯罪者が近年の主たる研究対象であり，非行・犯罪臨床専門家，精神科医，教育関係者などと連携しながら研究を進めている。		
藤 川 大 祐	教授	教育方法学，授業実践開発
キャリア教育，メディアリテラシー教育，ディベート教育，数学等，各教科・領域の新しい授業プログラムや教材の開発を研究。情報社会の進展やいじめ・学級崩壊等の問題をふまえ，教育内容及び教育方法の革新を検討している。		
高 木 啓	准教授	教育方法学，授業研究
学習論あるいは学び論といった理論と，教育方法学との関係について研究している。具体的には「構成主義」という論がドイツ教授学に与えたインパクトがどのようなものかを通して考察を進めている。		
市 川 秀 之	准教授	教育哲学
1980年代にアメリカで生まれた，クリティカル・ペタゴジーの理論研究を行っている。また，それを通して得られた知見を用いた民主主義教育論の研究を進めている。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

言語・社会系

樋 口 咲 子	教授	書写書道教育学 (国語教育)
書写書道教材及び授業の開発を研究課題としている。近年、毛筆及び硬筆の運筆研究を、書字過程の研究の観点から行っている。また、書写書道教育史研究をとおして、今日的課題につながる問題点を究明している。		
安 部 朋 世	教授	国語学 (国語教育)
現代日本語文法研究（とりたてて表現の研究、抽象名詞と文型に関する研究など）、国語科における主として「言葉の特徴と使い方に関する事項」の内容や教材開発に関する研究（論理的文章を中心とする書くことと語彙・文法・文章構成に関する研究など）を行っている。		
森 田 真 吾	教授	国語教育学 (国語教育)
国語科教材（学習材）論、近代国語教育史研究、国語科文法指導論、書くことの指導に関する研究。これらの研究を通して、国語教育における指導内容の正しさ（規範性）を究明することを主な課題としている。		
佐 藤 元 紀	准教授	日本近代文学、日本近現代詩 (国語教育)
中原中也を中心とした近代詩人の作品の同時代的意義の分析、現代詩人の作品との連続性と断絶の究明を主な課題としている。また、「日本詩壇」を中心とした十五年戦争期の詩歌の展開と抵抗に関しても研究を行っている。		

○西 垣 知佳子	教授	英語教育学 (英語教育)
英語教育全般を扱っている。なかでも、基礎研究として語彙分析、実践研究として語彙指導、コーパスの英語教育への応用、リスニングとスピーキングの指導、多読、小学校英語、小・中・高の英語教育の連携を主な研究テーマとしている。		
本 田 勝 久	教授	英語教育学、英語学 (英語教育)
英語科教育学における教科課程（カリキュラム・シラバスの変遷）、第二言語習得における学習者要因（動機づけの新しい枠組み）、英語教育とその関連領域における教授方法（語彙を中心とした学習指導）、英語教師論と教員養成（小学校英語教員を養成するための履修基準）について研究している。		
物 井 尚 子	教授	英語教育学、早期英語教育 (英語教育)
英語教育学、とくに早期英語教育、小学校での英語教育を専門とする。主な研究課題は、第二言語習得理論に基づく教授方法の開発と実践、および早期英語教育の情意面からの検証として、児童用 L2 WTC (Willingness to Communicate) モデルの構築である。		
ホーン・ベバリー	准教授	社会言語学、文化と言語 (英語教育)
I teach in English with a goal of making students familiar with academic English and the way of expressing academic ideas through discussions, presentations and essay writing. I focus on the relationship between language and culture from theoretical and practical points of view as well as the issues which we need to consider in intercultural communication.		
星 野 由 子	准教授	英語教育学 (英語教育)
英語教育学、とくに語彙習得・リーディング・テスト・小学校での英語教育を専門としている。現在取り組んでいる研究テーマは、多義語の習得を通じたメンタルレキシコンの構造の解明と、小中連携を行うための英語語彙の調査である。		
石 井 雄 隆	准教授	英語教育学、応用言語学 (英語教育)
英語教育学、応用言語学を専門としている。特に学習者コーパス研究、ICTやコンピュータなどテクノロジーを活用した英語教育、パフォーマンス能力の指導と評価を中心に研究している。		

○戸 田 善 治	教授	社会科教育学（歴史教育） (社会科教育)
歴史教育におけるナショナルアイデンティティ形成とシティズンシップ形成の論理について。法教育とシティズンシップ教育の関係について。社会科教育における社会認識体制の「構築」と「脱構築」の論理。ポピュラー文化の教材化。「人間と文化」の視点から既存の教科内容編成をつくりかえる。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

澤 田 典 子	教授	西洋古代史 (社会科教育)
古典期のアテネ民主政に関する研究、古典期アテネの政治家のプロソポグラフィ研究、前4世紀のギリシア世界の政治外交史研究、フィリポス2世の治世を中心とした古代マケドニア王国史研究。		
小 関 悠一郎	教授	日本近世史 (社会科教育)
江戸時代の政治史・思想史の研究。政治史（藩政史）に関わる大名家文書・村方文書や明君録などの書物を主な素材に、各地域の政治や社会のあり方を解明し、近世という時代を読み解くことを課題としている。		
梅 田 克 樹	准教授	経済地理学 (社会科教育)
農産物の生産と流通が、どのような空間的変容を遂げてきたのか。特に、畜産や蔬菜・果樹など、商品作物的性格が強い部門を研究対象にする。日本のほか、ニュージーランドやインドなどでも調査を行っている。		
妹 尾 裕 彦	准教授	国際経済学（国際政治経済学）、開発学 (社会科教育)
世界の後発発展途上国は、いかにして政治的経済的な発展軌道に乗ることができるのか、あるいはできないのか。こうした問題を、内戦、一次産品、資源の呪いなどの観点から、政治経済学的に検討している。		
阪 上 弘 彬	准教授	社会科教育学（地理教育）、持続可能な開発のための教育 (社会科教育)
社会科教育学のなかでも特に地理教育を中心に、カリキュラム論や授業論、持続可能な開発のための教育（ESD）について研究している。また日本だけでなく、外国の社会科教育を対象とした研究にも取り組み、とりわけドイツの社会科教育（地理教育）を主な研究対象としている。		
山 本 響 子	助教	憲法学、公的扶助論、入管行政 (社会科教育)
外国人の人権、とりわけ最低生活保障への憲法上の権利について研究している。ドイツを比較対象国とし、公的扶助法における外国人の取扱いや、司法による立法裁量の統制方法を分析して、当該権利の内容と保障の方法を明らかにしようとしている。また、出入国管理の観点から生存基本権の意義や射程を明確にすることを試みている。		

米 田 千 恵	教授	食物学、水産化学 (家庭科教育)
水産物の食味因子、すなわちエキス成分やテクスチャーについて、季節による変化、調理・加工による変化について調べている。また小・中・高の家庭科食生活分野の学習と関連させて、栄養素の機能、食品の特性、食品衛生について、教材開発を行っている。		
中 山 節 子	准教授	家庭科教育学 (家庭科教育)
家庭科の教育実践に関わる生活課題を踏まえた教育内容の問い直し、教材開発、指導法、評価など家庭科の実証的研究を主な研究テーマとしている。		
古 濱 裕 樹	准教授	被服学（染色学、被服整理学） (家庭科教育)
被服学全般を専門分野とするが、特に繊維の染色と被服整理学に深い造詣を持つ。その中でも天然染料を用いた染色技術と染色物の色彩に関する研究は、独自性の高い成果を生み出している。また、染織文化財の分析にも取り組んでいる。ほかに染色技術を活用した教材の開発や、地域づくりへの提案を通じて、社会貢献活動も行う。		
安 藤 藍	准教授	家族社会学、生活経営論 (家庭科教育)
親元で育つことが困難な社会的養育下の子どもと里親等の「家族」の経験的研究・支援を主たるフィールドに、ケアの公私分担のあり方や社会政策の規定する家族像の問い直しを行う。ほか、家族に関わる現代的課題の教育現場での扱い方にも関心をもっている。		

理数・技術系

加 藤 徹 也	教授	物性物理学、物理教育 (理科教育)
物体運動のビデオ分析、不均一磁場の分布と磁力、音に関する振動分析（光干渉法等）、固体中の力の伝達（光複屈折法等）、科学実験と内容言語統合教育（英語による科学実験）、三角格子反強磁性体の強誘電性構造相転移など。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

山 下 修 一	教授	理科教育学，理科授業論 (理科教育)
主に理科授業づくり（教材開発・授業評価など）に関する研究をしている。今まで理科を学習してきた、納得できなかったところ（例えば、電磁石・光合成・水の電気分解などの説明）を現職教員たちと議論しながら、よりわかりやすいものにして、実際の理科授業で効果を検証していく。		
大 和 政 秀	教授	植物・菌類生態学 (理科教育)
植物と菌類の共生体である菌根について、主に生態学的側面からの研究を行い、この生物間相互作用を通じて生態系の成り立ちに関する理解を深め、理科教育、環境教育への活用を図っていく。		
三 野 弘 文	教授	光物性物理学 (理科教育)
無機・有機半導体を対象とした光学応答の研究、光による電子スピンの操作と観測、超短パルスレーザーを用いた超高速応答、液体ヘリウムを用いた極低温、超伝導マグネットを用いた強磁場下での物性研究、太陽光発電に関する教材開発。		
○林 英 子	准教授	物理化学，無機化学 (理科教育)
1. 物質の相転移挙動の解明：高感度示差走査熱量計を用い相転移温度や相転移熱を測定し、詳細な相転移挙動を明らかにする。2. 化学実験教材の作成：酸化還元反応の可視化、結晶作成など。3. 理科の学習知識の日常生活への活用。		
笹 川 幸 治	准教授	動物生態学，動物分類学，昆虫学 (理科教育)
昆虫類の、環境指標生物として用いられるグループを用いて、生態・分類・進化などの生物多様性分野に関する多面的な研究を行なっている。また、身近な種の基礎生態の解明と、その生物教材としての利用法の検討も行っている。		
泉 賢太郎	准教授	地球科学 (理科教育)
地球表層環境の変遷とそれに対する生物の応答様式を、様々な時空間スケールで解明することを主要研究課題としている。また、新たなアプローチに基づく地学教材の開発も行っている。		
渡 邊 康 平	准教授	有機化学 (理科教育)
合成化学と計算化学を独自に融合させ、生物活性物質や色素材料などの機能性有機分子を創出するための新しい反応開発に取り組んでいる。さらに、この研究技術を基盤に、本来目に見えない分子の挙動を可視化する“魅せる化学”を実践し、教育現場で活用できる化学教材の開発も目指している。		
大 瀧 竜 午	助教	理科教育学 (理科教育)
生徒実験活動の改善を目指して、小学校及び中学校における実験活動の指導方法に関する研究に主に取り組んでいる。海外の理科授業との比較研究等も行っている。		

松 尾 七 重	教授	数学教育学 (数学教育)
算数・数学の学習指導、特に、図形の学習指導に関する研究、算数・数学教育による思考力・表現力の育成に関する研究、就学前教育と小学校算数科教育、小学校算数科教育と中学校数学科教育との接続に関する研究。		
白 川 健	教授	非線形解析学 (数学教育)
非線形発展方程式論は、比例関係のような線形的な法則だけでは説明できない非線形な現象を科学的に理解するための数学理論である。現在の研究内容は主に現象の定性的性質に関するものであり、理論解析と数値実験の2つのアプローチがある。		
辻 山 洋 介	准教授	数学教育学 (数学教育)
数学的なプロセスを重視した算数・数学教育に関する研究。特に、証明（proof and proving）、蓋然的な考えを生かした議論（argumentation）、数学的探究、統計領域における説明について、それらのプロセスや方法、学習指導、教材、カリキュラム等について、附属学校との共同研究を含め、理論と実践の両面から研究を進めている。		
前 田 瞬	准教授	微分幾何学，幾何解析，情報幾何学 (数学教育)
1. 調和写像の一般化の研究，2. リッチソリトン，山辺ソリトンの研究，3. ヘッセ多様体上の幾何学的フローとその自己相似解の研究。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

磯 部 遼太郎	助教	代数学，可換環論 (数学教育)
可換環の代数構造に関する研究。特定のイデアルの遍在性解析や構造の特徴付けを用いて，Cohen-Macaulay環の内部構造解析を主として行なっている。		

○飯 塚 正 明	教授	電子デバイス工学，電子回路工学 (技術教育)
主な研究テーマは，機能的な材料を用いた次世代電子部品の開発，次世代情報機器の開発，技術・工学に関する教材・実験課題の開発，情報技術やプログラミング等の教育に関する教材開発である。		

○板 倉 嘉 哉	教授	航空宇宙工学，空気力学 (技術教育)
超音速輸送機における低速空力特性の改善，プラズマアクチュエーターによる渦の能動的制御，放電混合型CO ₂ 超音速流レーザーの開発，中学校技術科機械領域における教材開発と実践。		

辻 耕 治	教授	植物育種学 (技術教育)
植物遺伝資源の探索・利用，作物の遺伝的多様性の評価，食文化，技術教育における生物育成領域。インド，ネパール，マレーシア，中国等での活動経験に基づく国際的研究とともに，日本の伝統作物についても掘り下げる。		

木 下 龍	准教授	技術・職業教育学 (技術教育)
専門は，①アメリカ合衆国における技術教育の歴史研究だが，これに加え，②技術教育のカリキュラム開発研究，③技術教育のための教育条件整備研究，④技術教育のための大学における教員養成研究にも取り組んでいる。		

田 邊 純	准教授	木材加工学，木材物理学 (技術教育)
生物材料である木材の物理的・力学的性質の調査とそのバラツキの度合いの評価とモデリング，技術教育木材領域における教材開発。		

芸術・体育系

○本 多 佐保美	教授	音楽教育学 (音楽教育)
小・中学校における音楽科の授業研究やカリキュラム研究，日本伝統音楽の教材化研究等に取り組んでいる。また，歴史研究では，子どもと教師・制度の関係性に関する研究，音楽の学習者の意識に着目した国民学校芸能科音楽の研究等を推進した。そのほか，他教科との連携によるESDの研究にも取り組む。		

久 住 庄一郎	教授	音楽教育（声楽・ドイツ歌曲及びオラトリオ，カンタータの演奏，合唱指揮） (音楽教育)
ドイツ語圏の声楽曲の演奏研究（独唱及び合唱指揮）。特にバロックから近代までのオラトリオ，受難曲，カンタータ，ミサ曲等の宗教曲と，古典派及びロマン派を中心とする歌曲。		

揚 原 祥 子	教授	ピアノ (音楽教育)
ピアノ演奏における心身と音楽の関係について，器楽アンサンブル・歌曲の伴奏法について。		

竹 内 由紀子	助教	音楽教育・器楽 (音楽教育)
小・中学校における音楽科教育について，特に子供の音楽的な基礎能力をより向上させるための指導法研究や，系統的なソルフェージュ教育を取り入れた指導カリキュラム研究に取り組んでいる。		

高須賀 昌 志	教授	環境芸術学，デザイン (美術教育)
環境芸術分野作品の制作研究に取り組んでいる。それら国内外での実践研究を基盤として，芸術の社会的機能について考察を重ねるとともに，造形教育において如何にクリエイティビティを培い，創造性の育成をすることができるのかについて検討している。		

神 野 真 吾	准教授	芸術学 (美術教育)
現代芸術の理論研究を基盤に，現代における表現活動の変容を美術の教科内容へ反映することや，そのための理論的枠組みの構築に取り組む。また，美術館教育，アート・プロジェクトなどの実践を通じ，社会における芸術の価値を検討する研究にも取り組む。		

氏 名	役 職	専 門 分 野
主 な 研 究 課 題		

小 橋 暁 子	准教授	造形教育学 (美術教育)
幼・小・中を対象にした造形教育内容研究を専門領域として取り組む。学校をフィールドに理論と実践の往還を意識した授業研究，造形教育カリキュラムの検討，造形活動を通した学校と地域の連携，地域素材を用いた活動づくりを行っている。		
佐 藤 真 帆	准教授	造形教育 (美術教育)
工作・工芸教育，比較教育研究を専門研究領域とする。現代社会における工芸（craft）とその学びについて研究を行う。特に，スキルベースのカリキュラムでのデザインの思考の育成に関心を持っている。また，美術を通しての異文化理解に関する研究，ワークショップを国内外で行っている。		

下永田 修 二	教授	スポーツバイオメカニクス，体力トレーニング論，水泳 (保健体育)
バイオメカニクスを主な研究テーマとしており，身体の動きを力学的に捉え，技能を向上していくために必要な動きの研究を行っている。また，スポーツのトレーニングに関して，それぞれの効果についても研究を行っている。		
谷 藤 千 香	准教授	体育・スポーツ経営学，スポーツ政策論，バドミントン (保健体育)
体育・スポーツ事業の効果的・効率的な運営方法の検討。日本及び諸外国のスポーツ政策を比較研究し，今後のスポーツ推進施策の検討。		
西 野 明	准教授	体育・スポーツ心理学，バレーボール (保健体育)
スポーツ選手に関わるメンタル面のサポートや心理的競技能力とパフォーマンスとの関係についての分析・検討。また，バレーボールのゲーム分析・戦術分析や体育授業における教師や生徒の心理・行動的側面からの検討。		
七 澤 朱 音	准教授	体育科教育学，舞踊教育学 (保健体育)
教育現場の実践（教師の教授行動・児童生徒の取り組み・授業評価等）を多角的に分析することを通して，体育授業における効果的な授業方法や学習成果を高める教材とは何かを検証していく。		
小 泉 佳 右	准教授	運動生理学，健康科学，運動処方 (保健体育)
身体活動が与える健康への効果について，特に幼児期を対象として研究している。特に，運動・スポーツ実践が生活リズムの確立に与える影響を，日内概日リズムを有する生理学的指標を用いて調査している。		
佐 野 智 樹	助教	スポーツ運動学，器械運動・体操競技 (保健体育)
スポーツ運動学の立場から，運動学習場面における動きの感じやコツ・カンと呼ばれる主観的な体験世界を対象にして，「どうすれば（どのような段階練習を設定すれば）その動きができるようになるのか」を探っている。		

5 修学の形態

- (1) 標準修業年限 2年
- (2) 修士論文 専攻の分野の中から主題を選び、指導教員のもとで修士論文（又はこれに代わる作品）を作成します。
- (3) 学 位 千葉大学大学院教育学研究科修士課程に2年以上在学し（ただし、優れた業績を上げた者については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとします。）、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文あるいはこれに代わる作品の審査及び最終試験に合格した者には、修士の学位を授与します。

(4) 授業時間

授業時間割

1 時限	8 : 50 ~ 10 : 20	2 時限	10 : 30 ~ 12 : 00	3 時限	12 : 50 ~ 14 : 20
4 時限	14 : 30 ~ 16 : 00	5 時限	16 : 10 ~ 17 : 40	6 時限	18 : 00 ~ 19 : 30
7 時限	19 : 40 ~ 21 : 10				

(5) 単位履修の方法

次の基準によって履修します。

履修基準

本研究科を修了するためには、下表の基準により所定の単位を修得する他、修士論文審査に合格することが必要となります。なお、修了のための履修基準と教育職員免許状取得のための必要単位数は異なります。

科 目 区 分		最低修得単位数
専攻必修科目		4 単位
系に関する科目	系選択必修科目	4 単位
	系選択科目	6 単位
教育実践・教育研究に関する科目		6 単位
課題研究		4 単位
選択科目		6 単位
計		30単位

6 教員免許

本研究科の各専攻において取得できる教員免許状は、次のとおりです。ただし、当該一種免許状を有していなければ取得できません。

専 攻	取得できる教員免許状の種類（教科）
学 校 教 育 学 専 攻	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 （国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，英語） 高等学校教諭専修免許状 （国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，家庭，情報，工業，英語） 特別支援学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状 養護教諭専修免許状

教員免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	教育職員免許法規定区分
小学校教諭専修免許状	修士の学位及び小学校教諭一種免許状を有すること	24	大学が独自に設定する科目
中学校教諭専修免許状	修士の学位及び中学校教諭一種免許状（取得を希望する免許教科の一種免許状）を有すること	24	大学が独自に設定する科目
高等学校教諭専修免許状	修士の学位及び高等学校教諭一種免許状（取得を希望する免許教科の一種免許状）を有すること	24	大学が独自に設定する科目
特別支援学校教諭専修免許状	修士の学位及び特別支援学校教諭一種免許状を有すること	24	特別支援教育に関する科目
幼稚園教諭専修免許状	修士の学位及び幼稚園教諭一種免許状を有すること	24	大学が独自に設定する科目
養護教諭専修免許状	修士の学位及び養護教諭一種免許状を有すること	24	大学が独自に設定する科目

（例）中学校教諭専修免許状（国語）を取得する場合に必要な要件

- ① 中学校教諭一種免許状（国語）を有していること
- ② 中学校教諭専修免許状（国語）に使用できる授業科目を24単位分修得すること
- ③ 本研究科を修了すること（修士の学位を有すること）

西千葉キャンパス案内図

- ◎試験当日は、自動車・バイク・自転車等による入構はできません。また、付添者は入構できません。
- ◎試験当日、最寄りの駅から試験場周辺にかけて合否電報等の勧誘や物品の販売等をしていることがありますが、これらの行為は本学とは一切関係ありませんので、不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれないよう十分注意してください。そのような事故が生じて本学は一切責任を負いません。

